



諏訪市で開催した日本映像民俗学の会諏訪大会

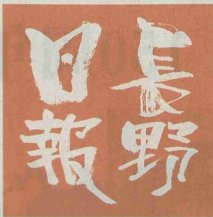
全国から映像作家、郷土史家 日本映像民俗学の会が諏訪大会

「御柱祭とは何か」意見交換

日本映像民俗学の会（北村皆雄代表）の諏訪大会は11日、諏訪市を主会場に2日間の日程で始まった。初日は全国各地から集まった映像作家や郷土史家、地域住民など約60人が参加。1992（平成4）年の御柱祭を記録した映像を諏訪市民館で視聴し、「御柱祭とは何か」をテーマに意見交換を行った。（唐沢宏）

同会は、映像を通して民俗・徳事務局長が「御柱とは何学に取り組む学術的な全国組織。1978年に創立し、大立る。原会長は「日本」の柱を織。1978年に創立し、大立る。原会長は「日本」の柱を織。1978年に創立し、大立る。原会長は「日本」の柱を織。1978年に創立し、大立る。原会長は「日本」の柱を織。

初日は、諏訪の御柱とネパール（すわ大昔フォラム）特別編と位置付け、地域住民に門戸を開いて行った。作品の上映があり、スワミズムの原直止会長と石笠三千



Nagano Nippo

題字デザイン：原田泰治氏

11月12日（日）

発行所 長野日報社

〒392-8611 諏訪市高島3 0266-52-2000代

©長野日報社2023

信州の環境にやさしい農産物
レス50 取得米
長野県認証 No.50-00024

信州米沢米

登録商標第5383435号

地場産「みどり市」
手勢市米沢北大塚ピーナスイン扱い 082-0363



4910856331233

00136

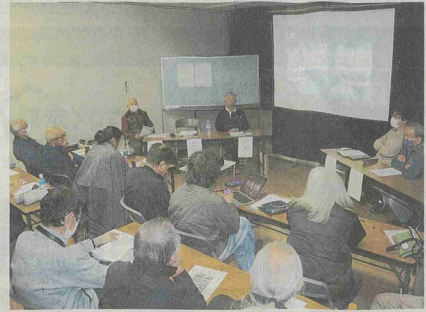
霜月祭りで検証 映像の「功罪」

日本映像民俗学の会（事務局・東京）はこのほど、本年度の大会を諏訪市公民館で2日間にわたって開いた。初日は県内外から映像関係者ら約60人が集まり、国の重要無形民俗文化財「遠山の霜月祭り」など諏訪信仰との関わりがうかがえる「天竜川水系」の民俗芸能の映像などを鑑賞。「映画は民俗芸能をどうとらえてきたか」記録の功罪を検証する」と題した討論があった。

日本映像民俗学の会 諏訪で大会

遠山の霜月祭りは、生命の生まれ変わりや無病息災を願い、飯田市南信濃・上村の各神社に湯立て神楽を奉納する。討論では、同じ天竜川水系の湯立て神楽、愛知県北設楽郡の「花祭」も含む7本を見て、文献に基づいた研究と異なる映像民俗学の意義を考えた。

1953（昭和28）年の岩波映画「山のまつり」は、遠山の霜月祭りのうち上町の祭りが主だが、撮影時に住民が衣装や舞を見栄え良く変えたり、下粟など特徴が異なる他集落の祭りが混ざったりと、「映画にすることによって祭りや影響が出ている」と同会代表の映像作家北村啓雄さん（伊那市出良、東京）。下粟の霜月祭りを撮影した自身の2009年の映画と照らし問題提起した。映像で残された舞が正當な「型」だと単一化されて理解されることにも注意



遠山の霜月祭りを撮影した70年前の岩波映画などを見ながら意見を交わした討論＝11日、諏訪市

舞の所作克明に記録 衣装や舞を見栄え良く変えた映画も

撮影目的や内容 明示する必要性指摘

民俗学者の故宮本繁太郎さんによる1930（昭和5）年の「花祭をたづねて」は、当時の9・5mmフィルムが暗所での撮影が難しかったため、夜に屋内で行う舞を、昼間に屋外で再現。本来の環境ではないが、所作が克明に見える。復元に関わる山上面紀さんは「古いフィルム特有の問題をどう考えるか」と投げかけた。

記録映画作家の故野田真吉さんが下粟の祭りに密着した69年の「冬の夜の神々の宴」については、ズームアップなど「詩的な表現」で印象的に伝わるなどの見方や、説明が分かりにくいなどの意見も「見えるものを通して、心にも迫る」（北村さん）映像民俗学の力や、撮影者の視点に議論が及んだ。

一方、誰でも手軽に映像を残せる時代になり、野田さんの下で助監督をしていた大塚正之さんは「記録か、イメージの世界の表現か。何のために撮影するかをはっきりさせる必要がある」。他の登壇者からも、誰がどう撮ったか、何が写っているかのメタデータを残す重要性が指摘された。日本映像民俗学の会の事務局長で駒沢女子大名誉教授の巨純吉さんは「正解はないが、後世に残すだけでなく、精神的な世界を次の世代にどう伝えていくかを考えることが大切ではないか」と話した。

同会は民俗学者の故宮田登さんらが78（昭和53）年に設立。大会は諏訪地域の歴史や文化を学ぶ一般社団法人「大昔調査会」と諏訪市博物館が共催し、諏訪の御柱祭や原始土民に迫る映像作品も上映した。